

第2回摂食・嚥下コーディネーター認定試験問題

動画問題

動画（1～5）を見て、問題に答えなさい。

動画（1） 本症例の病態、治療方針を説明した文章で正しいものを一つ選びなさい。

- a) 発話明瞭度は低下していない。
- b) 開鼻声が認められる。
- c) 構音運動は正常である。
- d) 本症例への訓練法としてはアイスマッサージが最も効果的である。
- e) 本症例にはメンデルソン手技が有効である。

動画（2） この食事場面の嚥下運動を運動学的に説明したもので誤っているものを一つ選びなさい。

- a) この期は咀嚼期（準備期）の運動である。
- b) この期は液体の摂取時には認められない。
- c) この期では唾液と食物を混和している。
- d) 下顎の側方運動が認められるが、これは舌による食塊の擁送運動を反映したものである。
- e) この期での舌は食塊の形成に寄与している。

動画（3） 本症例に実施しているリハビリテーションの手法につき正しいものを一つ選びなさい。

- a) この訓練法は構音障害の症例に適している。
- b) この訓練法は鼻咽腔閉鎖不全の症例に適応される。
- c) この訓練法は、シャキア法という。
- d) この訓練法では口腔内に少量の水分を含んで実施する。
- e) この訓練法はマサコ手技という。

動画（4） どのような症候であるか答えなさい

- a) 安静時振戦
- b) 繊維性れん縮
- c) アテトーゼ
- d) ミオクローヌス
- e) ディスキネジア（舞蹈病様運動）

動画（5） どのような症候であるか答えなさい

- a) 安静時振戦
- b) アテトーゼ
- c) 繊維性れん縮
- d) ミオクローヌス
- e) ディスキネジア（舞蹈病様運動）

問1 嘔下機能低下を疑う症状はどれか

- (1) 食物の嗜好の変化
- (2) 食欲不振
- (3) 食後にがらがら声になることがある
- (4) 食事中、口からこぼすことが増えた
- (5) 肺炎の繰り返し

a (1), (2) b (2), (4), (5) c (3), (4), (5) d (1) ~ (5) のすべて

問2 嘔下機能について正しいものを選びなさい

- (1) 口腔および咽喉頭粘膜の知覚は高齢者でも保たれている
- (2) 加齢に伴って安静時の喉頭の位置は低くなる
- (3) 気道防御反射に重要な喉頭蓋、披裂部の知覚は三叉神経支配である
- (4) 喉頭挙上運動は主にオトガイ舌骨筋・甲状舌骨筋などの収縮により、神経支配の起始核は舌下神経核にある
- (5) 食道入口部は通常は陽圧を維持し、嚥下時に平圧あるいは陰圧化する

a (1), (2) b (2), (4), (5) c (3), (4), (5) d (1) ~ (5) のすべて

問3 嘔下障害患者の食事について誤っているものを選びなさい

- (1) 誤嚥性肺炎のため絶飲食としていたが、回復した患者に試飲させたところ、むせることがなかったため食事を開始した
- (2) 気管切開チューブ留置中でも経口摂取は開始できる
- (3) 経口摂取していなくても誤嚥性肺炎をきたすことがある
- (4) 誤嚥がみられる患者でも食品を工夫すれば経口摂取可能なことがある
- (5) 嘔下機能の低下している患者にはきざみ食が安全である

a (1) (2) b (1) (5) c (2) (3) d (3) (4) e (4) (5)

問4 寝たきり高齢者に生じやすい状態とその予防に関する組み合わせで適切でないものを一つ選びなさい

- a 起立性低血圧—安静臥床 b 尖足—間接可動域訓練 c 誤嚥性肺炎—口腔ケア
- d 尿路感染—水分摂取 e 便秘—腹部マッサージ

問5 褥瘡を起こしにくいのはどれか一つ選びなさい

- a やせ b 貧血 c 関節拘縮 d 皮膚の乾燥 e 低アルブミン血症

問6 高齢者の服薬に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい

- a 認知機能障害は、服薬状況を悪くする要因となる
- b 錠剤は小さくなるほど服用しやすい
- c 薬剤による副作用は一般に高齢者の方が少ない
- d 服用した記憶があいまいな場合、再度服用してもらう
- e 病院から処方された薬は、介護保険施設では管理をしない

問7 高齢者の疾患の特徴に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい

- a 多疾患の合併が多い
- b 症状が定型的である
- c 社会的環境の影響を受けやすい
- d 潜在的な臓器障害が多い
- e うつ症状を伴いやすい

問8 舌を突出させるのはどれか 一つ選びなさい

- a 縦舌筋
- b 茎突舌筋
- c 舌骨舌筋
- d 口蓋舌筋
- e オトガイ舌筋

問9 寝たきり状態にある人の褥瘡に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しい番号を選びなさい

- a 同一部位の長時間の圧迫による血行障害が原因である
- b 側臥位では、仙骨部、踵部に発生しやすい
- c 皮下組織が壊死に陥ると、黒色痂皮を形成する
- d 予防には、6時間おきに体位変換をおこなう

	a	b	c	d
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問10 誤嚥性肺炎に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しい番号を選びなさい

- a むせこみが無くても発症する場合がある
- b 抗生物質は無効である
- c 鎮静剤の服用も原因となり得る
- d 口腔ケアは、発症予防に効果がある

	a	b	c	d
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問 11 脳血管障害に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をついた場合、その組み合わせとして正しい番号を選びなさい

- a 脳出血は、高血圧性病変をきたした脳内の動脈が破裂して起こることが多い。
- b くも膜下出血は、偏頭痛が引き金となって発症する。
- c 心房内の血栓は、脳塞栓の原因となり得る。
- d 一過性脳虚血発作を繰り返す人は、脳梗塞を発症やすい。

	a	b	c	d
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問 12 食事前の誤嚥予防の介助に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をついた場合、その組み合わせとして正しい番号を選びなさい

- a 対応していることを確認する
- b 口唇、舌、頬の運動をおこなう
- c 頸部を後屈した姿勢に保つ
- d トロミをつけるなど、嚥下機能に応じた食形態を用いる

	a	b	c	d
1	○	○	×	○
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問 13 食事介助に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をついた場合、その組み合わせとして正しい番号を選びなさい

- a 左半側空間無視の場合には、右側からの介助が望ましい
- b 食事の前後には義歯の有無を確認する
- c 片麻痺のある人には、口の麻痺側にスプーンを入れる
- d 一口ごとに、口の中に食べ物が残っていないか確認する

	a	b	c	d
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	○
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問 14 咀嚼中に口腔以外で食塊が存在するのはどれか一つ選びなさい

- a 鼻腔
- b 上咽頭
- c 下咽頭
- d 中咽頭
- e 喉頭

問 15 摂食・嚥下障害に対する間接訓練で応用されるものを二つ選びなさい

- a 噫下体操
- b 横向き嚥下
- c 姿勢の調節
- d 食物形態の調節
- e アイスマッサージ

問 16 事例

Yさん（78歳、女性、要介護3）は半年ほど前に指定介護老人福祉施設に入所した。歩行は自立している。認知症があり、自分の名前や生年月日が正しく答えられない。食事は、はじめはスプーンを持って摂取するが途中から手でつかんで食べる。摂取量にはむらがあり、飲水量も少ない。自歯は無い。尿失禁があるのでリハビリパンツを使用し、職員がトイレに誘導している。頻尿はない。リハビリパンツには褐色の濃縮尿が見られる。

Yさんの食事介助に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しい番号を選びなさい

- a 1回の食事摂取量だけでなく、1日のトータルバランスに配慮する
- b 食事摂取量にムラがあることの原因を探る
- c 口腔ケアは希望があればおこなう
- d 1日の水分摂取量を把握する

	a	b	c	d
1	×	×	○	○
2	○	×	○	×
3	○	○	×	○
4	×	×	○	×
5	○	○	×	○

問 17 パルスオキシメーターで測定できるものを一つ選びなさい

- a 呼気酸素濃度
- b 動脈血酸素分圧
- c 動脈血酸素飽和度
- d 呼気二酸化炭素濃度
- e 動脈血二酸化炭素分圧

問 18 鼻咽腔閉鎖に最も関与するものはどれか一つ選びなさい

- a 口蓋垂筋
- b 口蓋舌筋
- c 口蓋咽頭筋
- d 口蓋帆張筋
- e 口蓋帆举筋

問 19 介護保険で正しいのはどれか二つ選びなさい

- a かかりつけ医が市町村に申請する
- b 被保険者の自立支援を理念とする
- c 利用者がサービスを選択できる
- d 医師が要介護認定を行う
- e 医療保険の一つである

問 20 直接訓練開始の条件として誤っているものを一つ選びなさい

- a 意識が鮮明である
- b 意思の疎通が図れる
- c 口から食べたいという意欲がある
- d 噫下時にムセない
- e 自力で空咳ができる

問 21 噫下訓練に最も適しているのはどれか一つ選びなさい

- a 常食
- b 水
- c お茶漬け
- d プリン
- e 餅

問 22

特別養護老人ホーム入所者を対象として、歯科衛生士による専門的な口腔ケアを週に1、2回行う群（口腔ケア群）と行わない群（対照群）とに分け、2年間追跡調査した結果を表に示す。

	口腔ケア群（184名）	対照群（182名）	有意性
発熱発生者数（%）	27(14.7)	54(29.7)	p<0.01
肺炎発症者数（%）	21(11.4)	34(18.7)	p<0.05
肺炎による死亡者数（%）	14(7.6)	30(16.5)	P<0.01

口腔ケア群と対照群とで有意な差が認められた直接的な理由を一つ選びなさい

- a ADL の改善 b 免疫能の亢進 c 口腔内細菌の減少 d 脳血液循環の改善
e 胃食道逆流の減少

問 23 嘔下訓練におけるアイスマッサージ法の目的を一つ選びなさい

- a 咽頭の収縮
b 咽頭期嘔下の誘発
c 輪状咽頭筋の弛緩
d 喉頭の閉鎖
e 鼻咽腔の閉鎖

問 24 不顕性誤嚥が確認できる検査を一つ選びなさい

- a 反復唾液飲み検査
b 水のみ検査
c フードテスト
d 嘔下造影
e 内視鏡検査

問 25 喉頭挙上不全によって咽頭残留を生じている患者に適切な訓練法、代償法の組み合わせとして正しい番号を選びなさい

- a. 息止め嘔下 b. バルン・ストレッチ法 c. メンデルゾーン法
d. 複数回嘔下 e. 頸引き嘔下

1 (a b c) 2 (a b e) 3 (a d e) 4 (b c d) 5 (c d e)

問 26 嘔下障害患者の直接訓練時の体位で、もっとも安全な体位を選びなさい

- a 仰臥位 b 座位前屈位 c 座位後屈位 d 腹臥位 e 側臥位

問 27 誤っている組み合わせを一つ選びなさい

- a 嘸下反射惹起障害—咽頭アイスマッサージ
- b 軟口蓋挙上運動障害—頸部前屈
- c 舌根運動障害—努力嚥下
- d 喉頭挙上障害—メンデルゾーン手技
- e 喉頭閉鎖障害—息とめ嚥下

問 28 内視鏡検査について誤っているものを一つ選びなさい

- a 座位で行う事が多い。
- b 無麻酔あるいは軽度麻酔下で行う。
- c 正常嚥下時には咽頭収縮によって視野が白くなる。
- d 空嚥下や発声を指示し鼻咽腔の閉鎖状況を確認する。
- e 咽頭麻痺があると健側梨状陥凹の唾液貯留が多くなる。

問 29 嚥下造影検査について正しいものはどれか一つ選びなさい

- a 誤嚥の危険性が高い患者には高浸透圧の造影剤を用いる。
- b ベットサイドでも施行可能である。
- c 嚥下咽頭期の観察が可能である。
- d 総義歯では外して検査を行う。
- e 入院が必要である。

問 30 筋萎縮性側索硬化症の症状の組み合わせとして正しい番号を選びなさい

- a. 舌の萎縮 b. 口とがらし反射 c. 口腔内の感覚低下
- d. 複視 e. 開鼻声

1 (a b c) 2 (a b e) 3 (a d e) 4 (b c d) 5 (c d e)

問 31 嚥下咽頭期の説明で正しいものを一つ選びなさい

- a 呼吸が約0.2秒停止する。
- b 要する時間は0.5秒前後である。
- c 終了直後に吸気が始まる。
- d 甲状咽頭筋が弛緩する。
- e 喉頭が1/2椎体分挙上する。

問 32 口腔咽頭期嚥下障害患者に適さない食形態を一つ選びなさい

- a みかん b バナナ c 卵豆腐 d ヨーグルト e ムース

問 33 脳卒中急性期の嚥下障害に関する記述で正しいものを一つ選びなさい

- a 初回発作であっても認められる。
- b 反復唾液飲みテスト（R S S T）の結果によって飲水を許可する。
- c 飲水には吸飲み容器を用いる。
- d 食物は低温のものが適している。
- e 頸部伸展位をとらせる。

問 34 嚥下障害に関する記述について、誤っているのを全て選びなさい

- a 嚥下障害は肺炎の原因になる。
- b 粘性の低い液体は誤嚥しにくい。
- c トロミ食やゼリー食が用いられる。
- d 顎をあげて嚥下すると誤嚥しにくい。
- e 嚥下訓練には食物を用いた間接訓練がある。

問 35 嚥下の過程に関する組み合わせで正しいものを一つ選びなさい

- a 先行期——食塊形成
- b 準備期——食物の認識
- c 口腔期——不随意運動
- d 咽頭期——随意運動
- e 食道期——蠕動運動

問 36 嚥下障害患者への食事介助の記載について正しいものを一つ選びなさい

- a 食事姿勢は、必ず90度の座位で行う
- b 患者とコミュニケーションをとるために、食事中に多く話しかけた
- c 送り込みに障害があるため、車いすのリクライニングを倒して食事させた
- d 食事介助の際、スプーンは上へ引き抜くようにするとよい

問 37 次の記述の空欄「①～⑤」にあてはまる記号をそれぞれ選びなさい

1. 認知症の多くは「アルツハイマー型認知症」と「①」である

- a) レビール体型認知症 b) 前頭側頭型認知症 c) 脳血管性認知症 d) 外傷性認知症

2. 軽度のアルツハイマー型認知症に認められる症状は「②」である

- a) 人物の失見当 b) 時間の失見当 c) 場所の失見当 d) 尿・便失禁
- e) 幻覚

3. 認知症の中核症状は「③」「見当識障害」「判断力の低下」である

- a) 妄想 b) 幻覚 c) 記憶障害 d) 徘徊 e) 異食

4. 着座して食事ができない方への対応として適切なものは「④」である

- a) 食物を見せる
- b) 全介助する
- c) 眼鏡をかける
- d) 高カロリー食を提供する
- e) 刻んだ食事を提供する

5. ペースが速すぎる方への対応として一番適切なものは「⑤」である

- a) 隣の人との間隔をあける
- b) 全介助する
- c) 保温用プレートを利用する
- d) 一皿ごと提供する
- e) トイレをすませておく

問 38 言語中枢があるのはどこか選びなさい

- 1. 大脳
- 2. 小脳
- 3. 橋
- 4. 延髄

問 39 意識レベルの観察で最初に行うものを一つ選びなさい

- 1 身体を揺さぶる
- 2 対光反射を見る
- 3 患者に呼びかける
- 4 痛み刺激を与える

問 40 体位変換が有効でないものを一つ選びなさい

- 1 無尿の改善
- 2 局所血流の改善
- 3 精神的苦痛の緩和
- 4 気道分泌物の喀出促進

問 41 在宅療養者と家族とに関わる専門職の基本的な対応で適切なものを一つ選びなさい

- 1 指示的な対応をする。
- 2 必要な情報や代替案を提供する。
- 3 利用するサービスの選定を行う。
- 4 看護師と家族で介護方針を決める。

問 42 ノーマライゼーションの考え方で適切なものを一つ選びなさい

- 1 障害の有無を比較しない社会にする。
- 2 障害のある人が優遇された社会にする。
- 3 障害のある人は障害のない人に頼らずに生活する。
- 4 障害の有無にかかわらず地域の中で共に生活する。

問 43 アルツハイマー病についての記述で正しいものを一つ選びなさい

- 1 頭部CTで多数の梗塞巣を認める。
- 2 発症年齢が遅いほど知的機能低下が著しい。
- 3 長期記憶よりも短期記憶の方が長く保たれる。
- 4 65歳未満の発症を若年性アルツハイマー病という。

問 44 呼吸についての記載で正しいものを一つ選びなさい

- 1 横隔膜は吸気時に収縮する。
- 2 睡眠時の呼吸は随意運動である。
- 3 最大呼気時の機能的残気量は0になる。
- 4 動脈血酸素分圧は肺胞内酸素分圧に等しい。

問 45 咀嚼についての記述で正しいものを一つ選びなさい

- 1 唾液にはムチンが含まれている。
- 2 咀嚼筋の不随意的収縮で行われる
- 3 舌の運動は三叉神経によって支配される
- 4 頸関節を形成するのは下顎骨と頬骨である。

問 46 長期臥床していた高齢者が端坐位訓練を病棟で開始することになった。

初回の訓練の説明で適切なものを一つ選びなさい

- 1 「ベッドに浅く腰掛けてください」
- 2 「顎を上げて座ってください」
- 3 「両足の裏をしっかりと床につけてください」
- 4 「30分は座っていてください」

問 47 在宅療養中の高齢者支援として専門職チームが活動する時に最も重要なことはなにか一つ選びなさい

- 1 近隣住民への活動状況の情報提供
- 2 職種間での目標の統一
- 3 各職種の独自の行動
- 4 年1回の活動評価

問 48 ヤールのステージⅢ度にあたるパーキンソン病患者の歩行訓練で適切なのはどれか一つ選びなさい

- 1 つま先から着地するように歩く
- 2 歩幅にあわせた線またぎ歩行をする
- 3 こきざみ歩行では加速しながら歩幅を広げる
- 4 重心が前にある場合は後ろに回りこんで支える。

問 49 認知症患者とのコミュニケーションで適切なものを一つ選びなさい

- 1 母親が幼児と接するように話す
- 2 作話があるときは内容を訂正する
- 3 興奮状態の時は安全を確認して一旦席をはずす
- 4 同じ内容を繰り返す場合は会話をすぐに打ち切る。

問 50 高齢者で発症頻度が増加するものを一つ選びなさい

- 1 急性虫垂炎
- 2 クローン病
- 3 十二指腸潰瘍
- 4 逆流性食道炎

問 51 嘉下障害の診断に有用な検査として正しいものの組み合わせを選びなさい

- a 嘉下圧検査 b 下咽頭・食道造影検査 c 味覚検査 d 音声機能検査
e 筋電図検査

1. (a、b、c) 2. (a、b、e) 3. (a、d、e) 4. (b、c、d) 5. (c、d、e)

問 52 嘬下時の喉頭挙上に関与するのはどれか選びなさい

- a. 胸骨舌骨筋 b. 胸骨甲状腺筋 c. 胸鎖乳突筋 d. 甲状舌骨筋 e. オトガイ舌骨筋
1. (a、b) 2. (a、e) 3. (b、c) 4. (c、d) 5. (d、e)

問 53 咽頭食道造影検査で正常な所見を一つ選びなさい

- 1 造影剤の鼻咽腔への逆流
- 2 造影剤の梨状窩での残留
- 3 喉頭下降後の造影剤の喉頭内への流入
- 4 後上方への喉頭挙上
- 5 1椎体間の喉頭挙上

問 54 高齢者の嘉下障害について誤っているものを一つ選びなさい

- 1 神経機能低下による感覚異常
- 2 勅帶のゆるみによる喉頭の低位
- 3 咽頭反射の減弱
- 4 輪状咽頭筋の弛緩
- 5 頸椎骨棘増殖による食道の圧迫

問 55 嘬下障害がみられないものを一つ選びなさい

- 1 軟口蓋麻痺
- 2 重症筋無力症
- 3 咽頭癌
- 4 食道異物
- 5 地図様舌

問 56 嘸下運動について誤っている組み合わせを一つ選びなさい。

- 1 喉頭挙上 — 甲状腺筋
- 2 声門閉鎖 — 隨意運動
- 3 咽頭期嚥下 — 舌咽神経
- 4 鼻咽腔閉鎖 — 嘸下圧
- 5 食道入口部 — 輪状咽頭筋

問 57 口腔ケアに関する記載で、正しいものの組み合わせを選びなさい

- a) 口腔細菌を減少させるためにもできるだけ薬液を使用する。
- b) 口腔に除去できていない剥離上皮の付着が認められたが、患者の疲れを考慮し口腔ケアを中断した。
- c) 口腔過敏が認められたので口腔ケアをおこなう前に前歯部歯肉のマッサージをおこなった。
- d) 口腔過敏への対処法を脱感作という。
- e) 唾液分泌量の減少は自浄作用を低下させる。

1. (a b c) 2. (a d e) 3. (b c d) 4. (b d e) 5. (c d e)

問 58 口腔ケアに関する記載で、間違っているものの組み合わせを選びなさい

- a) 口腔ケアをおこなうことで味覚の改善を促すことはできるが、嚥下反射そのものの改善には繋がらない。
- b) 口腔ケアの目的は口腔をきれいにすることである。
- c) 口腔ケアの際に口腔器官を他動的に動かす事は、嚥下リハビリとしても有効である。
- d) 肺炎による発熱があったので、口腔ケアを中止した。
- e) 口腔ケアをおこなう際、1回できれいにする必要はない。

1. (a b c) 2. (a b d) 3. (b c d) 4. (b d e) 5. (c d e)

問 59 口腔ケアに関する記載で、間違っているものの組み合わせを選びなさい

- a) 座位が取れない嚥下障害患者に対し、健側を下にした半側臥位でケアを実施した。
- b) 嚥下障害患者の口腔ケアでは誤嚥のリスクを考え、なるべく拭き取るケアをおこなう。
- c) 座位が取れない患者に対しては、口腔内が見やすいように仰臥位で頭を後方へ倒し口を開けてもらう。
- d) 残存歯のケアはできるだけ大きく歯ブラシを動かし手早くおこなう事が望ましい。
- e) 食事前の口腔ケアは誤嚥のリスクの減少に繋がる。

1. (a b c) 2. (a d e) 3. (b c d) 4. (b d e) 5. (c d e)

問60 次の文章で正しいものを全て選びなさい。

- a) 要介護高齢者の日常生活における楽しみの第1位は家族訪問、第2位が食事である。
- b) 食べ続けることは嚥下機能の維持・向上に繋がる。
- c) 嚥下障害の重篤化の要因として、食べられないことによる嚥下機能の廃用がある。
- d) 嚥下障害患者には、出来るだけ早く胃瘻増設することが望ましい。
- e) 経管栄養は栄養吸収という面で経口摂取と何ら変わらない。

問61 嚥下障害に関する次の文章で正しいものを全て選びなさい。

- a) 専門職は各々の専門性を發揮し、個別に対応することが患者の早期回復に繋がる。
- b) 患者支援では、地域における多職種協働が非常に重要である。
- c) チームアプローチの際、チームリーダーとして医師が最も適している。
- d) 経口摂取を促すことは、入院期間の短縮に繋がる。
- e) 患者への対応は専門職が協議して決定し、患者・家族に伝える。

問62 「球麻痺」や「球症状」の「球」とは脳のどの部分をさす解剖学的用語か一つ選びなさい

- a) 嗅球
- b) 小脳中部
- c) 中脳被蓋
- d) 橋
- e) 延髄

問63 筋萎縮性側索硬化症（ALS）に関する記述で誤っているものを一つ選びなさい

- a) 嚥下障害・構音障害が早期に現れるタイプは予後が悪い
- b) 眼球運動は早期から障害を受ける
- c) 感覚系は一般的に侵されない
- d) 膀胱・直腸機能は末期まで保たれる
- e) 手の末梢筋から萎縮が多い

問64 未治療パーキンソン病の主要症候で誤っているものを一つ選びなさい

- a) 口舌ディスキネジア（不随意運動）
- b) 姿勢保持障害
- c) 嚥下障害
- d) 安静時振戦
- e) 動作緩慢

問65 重症筋無力症を診断する根拠としてまちがった記述を一つ選びなさい

- a) 反復誘発筋電図で振幅の著明な漸増（增高）現象がみられる
- b) 安静により開鼻声が一時的に回復する
- c) エドロフォニウム静注により眼球運動障害が軽快する
- d) 眼瞼下垂が起きやすい
- e) 血清中に抗アセチルコリン受容体抗体が検出される

問66 合併症のない多系統萎縮症でみられない症候を一つ選びなさい

- a) 小声
- b) 対麻痺
- c) 運動失調
- d) 声門開大障害
- e) 嚥下障害

問67 疾患と症候の組み合わせでまちがった組み合わせを一つ選びなさい

- a) 多発性硬化症—視神経萎縮
- b) 進行性核上性麻痺—上方視・下方視眼球運動障害
- c) 大脳基底核ラクナ梗塞—嚥下障害・構音障害
- d) ALS—舞踏病様不随意運動
- e) 多系統萎縮症—神経因性膀胱

問68 病態と関連した記述でまちがった組み合わせを一つ選びなさい

- a) ALS—呼吸筋麻痺
- b) 重症筋無力症—胸腺摘出術が有用
- c) 多発性筋炎・皮膚筋炎—隠れ癌に注意
- d) 多系統萎縮症—食用蛙（ウシガエル）様のいびき
- e) 誤嚥性肺炎—食事誤嚥が圧倒的に多い

問69 誤嚥性肺炎を起こしている患者に避けたい薬剤を一つ選びなさい

- a) 塩酸アマンタジン
- b) 向精神病薬（ドーパミン阻害剤）
- c) ACE（アンギオテンシン変換酵素）阻害剤
- d) 漢方薬・半夏厚朴湯
- e) コショウの辛み成分カプサイシン

問70 次の空欄「①～⑦」にあてはまるものを選びなさい。

1 嚥下運動は食物を見て認知する「①」からスタートする。「①」は「②」を図るステージとしても重要である。口腔に取り込まれた食物は咀嚼され、唾液と混和されることで「③」となる。「③」は舌の「④」運動によって咽頭へと送られる。舌は可動性の高い器官であるが、「⑤」は随意的に動かすことができない。

- a) 舌根部 b) 準備期 c) 食欲 d) 先行期 e) 口腔期 f) 食塊 g) 搾送
- h) ピューレ状 i) 送り込み j) 嚥下の意識下 k) 奥舌部

2 咽頭残留が生じやすい部位は「⑥」と「⑦」である

- a) 喉頭 b) 鼻咽腔 c) 喉頭蓋谷 d) 舌下部 e) 口蓋
- f) 梨状窩 g) 喉頭蓋